

## 北海道のカメの実際のところ

北海道にカメはもともといたの？という質問は、ちょっと答えにくい質問です。北海道の海には、実は野生のウミガメ類が時々回遊しており、カメはいないとは言いづらいところです。しかし、池や沼に住むカメは、北海道にはもともといなかったもので、池や沼に住むカメたちは外来種と言えます。

爬虫類の多くは暖かい環境を好みます。しかし中には、寒い環境も耐え、生き残る種類もあります。今回お話しするのは北海道で外来種として定着しているミシシippアカミミガメなどについてです。ミシシippアカミミガメはミドリガメとも呼ばれるカメで、非常に多くの方が飼育している種類です。なかには飼育を持て余し、野外に捨ててしまう方もいます。ミシシippアカミミガメは小さい頃は肉食傾向が強く、様々な生き物を食べて生活します。つまり野外に捨てられると、北海道の野生の動物たちを食べて暮らすことになるのです。また、成長して大きくなると、徐々に植物を食べる傾向が強くなり、水草などを食べていくようになります。水草を食べるということは、水草自体への被害もありますが、その水草に産卵している昆虫なども産卵場所がなくなってしまう、被害を受けてしまう事になります。農作物であるレンコンを作っている地域では、ミシシippアカミミガメがレンコンの葉っぱを食べてしまい、レンコンが育たなくなるという農業被害も確認されています。

さて、人間にとってかなり寒い地域である北海道で、ミシシippアカミミガメなどのカメは冬も生きていけるのでしょうか？冬眠はどうしているのでしょうか？地面に浅い穴を掘って眠るだけでは土が凍結して死んでしまいます。実はこれらのカメは、水中で驚きのメカニズムを使って冬眠をしているのです。北海道でもとても寒い地域とされるオホーツクの北見市でも、ミシシippアカミミガメが冬越しに成功した例があります。真冬には-20℃を下回る日もあるようなところなのですが・・・。

外来種という、その地域で一年中無事に暮らし、そして産卵などして子孫を残してその地域にはびこる生き物というイメージが強いですが、北海道においてカメたちはどうなのでしょう。

冬越しをして、交尾をして、産卵をして、その卵が孵化をして増えているのでしょうか。現在のところ、そのような形でカメが爆発的に増えているかどうかは不明な状態です。環境省の外来種の資料では産卵に至ったとしても、イギリスでは温度が低すぎて孵化しないので、北海道でもそうなるのでは…？という記述がありますが実際どうなのでしょう。

さて、卵が孵化しないとして、カメが割とたくさん見られるのはどうしてなのでしょう。冬越しをするし、寿命も長いのも要因の一つだと思います。また、私たちの中で無責任な飼育をして捨てられ続けているから減らないのかもしれませんが。あまりに捨てガメがひどく、卵が孵るような地域では、歯止めが効かず、ついには外来生物法という法律でも規制がかかろうとしています。今日はこのような話を学んでいって下さい。